

ときがわ町地域福祉計画推進委員会 会議録

会議の名称	令和7年度第1回ときがわ町地域福祉計画推進委員会
主な議題	○計画の概要説明について ○計画の進捗状況について ・地域福祉計画 ・地域福祉活動計画 ○その他
開催日時	令和8年3月24日（火） 13時30分～15時10分
会議録の公開（非公開・一部非公開）とその理由	公開
委員	小池達郎委員（新規）、村田陽子委員、菊池祥司委員（新規・欠席）、竹内徹也委員（新規・欠席）、神山正委員、村田朝子委員、土屋邦子委員（新規）、坂本萌衣委員、野口本和委員、坂本栄治委員（新規・欠席）、小池猛委員、岡野正一委員、小池裕子委員、谷野裕子委員
事務局	福祉課 畑課長、蓮沼主幹、梅澤主席主査、大井主事 社会福祉協議会 山崎事務局長
審議等内容又は概要	
1 開 会	司会（畑課長）
2 あいさつ	前田町長
3 自己紹介	出席委員
4 協議事項	委員会設置規則第5条第1項により委員長が議長になる。 第5条第2項の定足数に達していることを確認する。（14人中11人の出席）
(1) 計画の概要説明について	梅澤主席主査より説明（資料参照）
(2) 計画の進捗状況について	

・ 地域福祉計画 福祉課 梅澤主席主査から説明（資料参照）

・ 地域福祉活動計画 社会福祉協議会 山崎事務局長から説明（資料参照）

### 【質疑及び意見交換の要点】

#### ・ 地域福祉計画について

なし

#### ・ 地域福祉活動計画について

委員 : 福祉の領域で具体的に今現状で一番困っていることは何か。

事務局 : 一番今の社協にとって重要なのは、いかに運営費を確保できるか。  
やりたいことが山程あるが、職員の数もあるなかでやらなければならない。予算が必要なものもあり、現在の運営費のなかでやりくりしていくかが課題。

事務局 : 福祉課からは、高齢者のみの世帯が増えている。地域と繋がりがあるとその家の生活状況が見えたりするが、組のつきあいを抜け、自分だけの生活に閉じこもってしまっているような方が、自宅で倒れてしまっていることが、増えつつある。

委員 : 課題意識を共通して持つ団体等との新しい関係性づくりをどう考えているか。

事務局 : 全ての答えではないが、一つの事例として、個別ケースを扱う中で、「困ったな」、「一旦立ち止まろうかな」というときには、いろんな関係者を集めて、情報共有を行う。そこからどんな手が打てるかを、いろんな関係者と集まりながら意見を出し合うことを不定期で行っている。個別のケース会議を開かないと、意外にうまくいかないことが多い。課題としては、個人情報ですので、どこまでを開示するか、関係者をどこまでの範囲で集めるかを迷う。なるべく多くの関係者を集め関わっていきたいと思っている。

事務局 : 町でもいろんな事業をしたり、社協でも地域に出向いていろんな活動を行ったりしている。事業所で行っているものも含め、皆さんに事業に参加いただくなかで、具体的にどこの家の人が困っている等の情報が入ってくる。「金銭的に困っている。」、「身体に障害があって困っている。」そういうところを連携しながら、その方にどのようなサー

ビスを繋げたらよいかを関係者を集め会議をもち、サービスに繋げて行く。総論で行う部分と、各論で行う部分が必要で、全てが救いきれているという訳ではないが、一つ一つを汲み取っていくことが必要。

委員 : 個人情報の壁は高いのか。

事務局 : 福祉課にいろんな情報を教えて欲しいと、町外の方から「自分の知り合いが居なくなってしまった。」等の連絡がくることもあるが、公開できる情報、できない情報をはっきり区別をしながら、一人一人を救っていくような、サービスに繋げる取り組みを行っている。

委員 : 今感じているのは、「組から抜きたい」という方が増えてきている。これは、早く手を打たないと、だんだんとみんなが抜けてしまったらどうするのか。住民だけで話し合ってもケンカみたいになってしまい、余計抜けてしまう。そのコミュニケーションをうまく取っていただける方が間に入らないと、大変なことになってしまう。

事務局 : コミュニティに関しては町でも取り組んでいるが、もう一步踏み込んだ取り組みも必要ではないかと考えている。行政にもいろんな分野があり、福祉課だけでは全ては取り組めないが、ご意見として伺い、今後も事業に活かしていけたらと考えている。

委員 : 新しい地域を組み直す時代になっていると感じる。自分が目にするところ、小中高生の居場所がない。子どもたちの居場所づくりを喫緊の状況として進めて欲しい。総括的な包括的な形の連携を取りながら、年齢の高い方から低い子たちが男女関係なく、集える場所が、組又は代替えするものとして、必要なんだなと強烈に感じている。学問として研究し実地で動いている方たちの先進事例、知見も借りながら、こういった課題が点在しているのかを、町民全員で共有しながら自分たちが何ができるかをしっかり考えていく時代になってきたと感じている。そういったセミナー、ワークショップ等の入口が低いアプローチ等はあるのか。

事務局 : 地域福祉は、子どもから高齢者の方、障害のある方、生活困窮の方等幅広い施策が必要な計画。今後、地域の方に計画の更新にあたりアンケートを取り、どんな課題があるか、その解決に向けどんな方法があるかをいろんな方から意見を伺い、ときがわ町としてできることはなにかということで、良い計画を作っていけたらと思っている。

今皆さんから話があったように、地域の組合、助け合いがだんだんと消滅してきている。高齢化に伴いやりたくても体力的に厳しいとか、若い方も働くのが精一杯で自治会に入らない方もいて、若い方が増えず、全国的な問題となってきた。高齢者や障害者等地域の支援が必要なのに支援していただける方がいない。また、特殊詐欺等もあり、地域で自分の内情を安心して話せないような社会情勢になっていて、地域福祉を目指しているが実現が難しいと事務局でも感じている。

委員 : 具体的なきっかけさえあればアプローチができると思うが、接点を持つという前向きな姿勢ではあるのか。

事務局 : 総務課も自治会が消滅してしまいう危機を感じていて、いろんな努力はしていると思うが、なかなかそれが思うようには目に見えてこず、減少の一途をたどっている状況。皆さんの意見を聞きながらでないとなしうと思う。

委員 : 皆さんの意見を吸い上げるときに、本人達が課題というか、自分がどういう立場で苦しんでいるかを、実感できていない方も多いと思う。その方にアンケートを取ったときにどれだけ意見が吸い上げられるのか疑問がある。それよりも、そういう現状の中で個別対応を含む複雑性の中の課題みたいところを自然と取り除く方策・スタンスを一つ別軸で持っていた方が、課題を抱えている方達からの意見は吸い上げずらいのではないかとすごく感じる。課題当事者こそ課題と捉えていない。

その方自体が、それが当たり前という形になってしまっている。そこから抜け出すことが良しですよと、価値観の問題なのか、抜け出すことによって次のステップに進めますよというところまで求めている。自分の体験だとそういった方は少なからずいる。そういった方を一定数我々は、包括的にその方が生活できるような形でサポートしている。ご自身はサポートされていることに気づかずに、そういう状況を作るというのも、そこはまた別でしっかり議論していくことも必要なのかなと、ここ数年とても感じるころはある。

事務局 : 委員さんは、日頃お店に来られた高齢者の方から、障害の方から・子どもさんのことまで連絡・対応いただいているが、そのあたりは地域福祉のその下の各論・各子どもの計画・障害の計画・高齢の計画に当てはめてやっていただいている地域の方の支援になるかと思うが、そ

ういう方についてはもう少し詳しく個別に対応していかなければならない問題かなと思う。

委員 : 各論の方から総論の方に持っていくといい。アンケート取っても書かないでしょうし。本当に困っている方は声を上げられない。

事務局 : 町民の皆さんからも、いろいろ心配のある家庭の情報等役場にも寄せていただいている。そういう個別のものはなんとか良いサービスに繋げていこうと取り組んでいる。

委員 : 我々の町レベルに近い他の市町村は、自治会の問題等は全国的に同じような感じなのか。

事務局 : そうだと思われる。

事務局 : 社協でよく他の事務局長と一緒にいる機会があるが、やはり町村部より都市部の方があきらかに自治会加入率の減少が激しい。

委員 : 今日民児協の会長も出席されているのが、民児協で開催しているふれあいサロンも、出て来ている人は良いが、出て来られない人の方がむしろ問題という感じだが、今は割合的にはどのような状況か。

委員 : 一時期よりはちょっと少ない。コロナ前と違い送り迎えがないからか、民児協からの助っ人も今はない。コロナで状況がすっかり変わってしまった。以前は全地区で開催していたが、コロナで3年間開催できず、再会した年度及び翌年度も、5地区、7年度は6地区だった。

民生委員も入れ替えが激しく、新任の方が多い。前任者から引き継ぎが行われているが、不安がいっぱいという方は多い。部会が3つあり、部会の中で班を作り、経験者が経験した内容をアドバイスしている。

委員 : 見守りするにしても一期では慣れない。伺うにしてもいつも慣れた方が来てくれるから心を開くということがあるが、一期だけでは難しい。

委員 : 高齢化と人がいないのに、一期で替わってしまったら、引き受けてくれる方がいなくなる。長くやってもらわないと芯が無くなる。

委員 : 地域によって戸数と年齢層が全く異なる。西平の後野・雲河原地区は、後野が20軒なく、雲河原20数軒しかない。その中から選べる人材がいらない。民生委員推薦委員をしたが、探すのはすごい大変。

事務局 : 昨年の12月1日から新しい委員さんをお願いしているが、半分から2/3くらいが入れ替わるかたちになってしまう現状。今年度も35名協力いただいている。入れ替えは近年の方が早い傾向。民生委員に地域の役職の中で、見守りをさせていただく大切な役割。ときがわ町は協

力いただき全地区お願いできているが、こちらもやはり都市部の方が  
欠員が出ている。

委員 : 後は、楽しくないとやらない。やっている中で喜ばれて自分が幸せに  
ならないと。楽しさがないと続けられない。

委員 : 結果自分のためになっていると思えば、続けられる。

事務局 : 民生委員さんも出掛けるときは、常に両端の家の状況をを気にしながら  
出掛けていると聞く。そういう方の協力はとても大切なことと感じ  
ている。

委員 : 必ずし訪問しないといけないと思っている方もいる。道端で会ったと  
きに声を掛け、会話から察すれば良い。緊急なことは電話でも大丈夫。  
訪問は気を遣う。玄関の中に入っていいかも迷う。

委員 : 愛育班は、さいたま市では訪問しないでくださいといろいろ難しい。  
公園で声を掛けたりしかできない。工夫しながら、話し合いをしてい  
くしかない。

事務局 : いろんな各種団体もそうだし、いろんなことがあり、少しずつ絡みが  
あり保たれていることもあると思う。もう一步踏み込んで、地域のため  
にできる人を作っていく必要もある。なかなか課題がすぐクリアできる  
わけではないが、基礎にはいろんな方がいろんな活動をしていただいで  
いるということを感じている。

委員 : いなくなってきたら、横の繋がりで一緒にやりましょうかとも先に行  
くとなってくるのかも。

委員 : 我々の年代だと、地域の事業者同士でコミュニティを作っている。自  
分たちの得意分野を掛け合わせて、新しいものを生み出している。横  
の連携、縦の年代を超えた上と下を繋げて行く意識を持って活動して  
いる。そういった課題意識を持って活動している人は多くない。中間  
支援者を支援していく枠組みも大事だと思う。移動販売で見守りをし、  
社協や福祉課に情報提供している。夏には必ず行き倒れの方が2・3  
件発生している。そうすると従業員も対応できるようになっていく。  
ただ、そこで直面していくのが、心のケア。事業者単体だと難しい。  
町として中間支援者を支援する形も整えていただけるとありがたい。

委員 : 子どもに福祉教育をとというのはすごく大事なことだと思う。小学校・  
中学校全部で何らかの形で福祉教育をしているというのが、福祉に関わ

る・参加する・体験する・理解するということも大事だと思うが、福祉のお世話になることはちっとも恥ずかしくないということも子どものうちからしっかり教えていきたい。自分が本当に困っていたら、どんどん周りに助けを求めてよいということを知らせていきたい。身近であった大人の話だが、福祉のお世話になるのは自分はいいと我慢してってしまう人が地域に何人もいる。いっぱい助けはあるのに、自分で断って命を縮めて苦しんでいる方もいる。ちっちゃいうちから、助けてあげてねだけでなく、お世話になっていいんだよという地域にしていけたら良いと思う。

### (3) その他

梅澤より説明（資料参照）

- ・来年度の第4期策定に向けての調査について

18歳以上の住民の方から1,000人を抽出してのアンケート調査及び前回同様に事業所や団体等への調査を行う予定。

- ・報酬及び費用弁償の支払いについて

## 7 閉 会 谷野副委員長

《15時10分終了》